



野生動物

寄生虫を落としたり、体を冷まそうとしたりしていると聞けば、なるほどだと思います。動物が泥の中に転がり、身をよじるあの行動のことです。泥浴びのための場は沼田(ぬた)と呼ばれます。この「ぬた」た「のた」に転じてできたのが「のたうち回る」という言葉だそうです。のたうち回る動物の代表はイノシシです。昔から身近な生き物だったものの、都市化が進んで縁遠い存在になってしまいました。・・・などと思い込んでいましたが、このところ都会への「進出」が相次いでいるようです。東京、足立区では先日、河川敷で大捕り物が繰り返されました。栃木県足利市や高松市では人が襲われる被害が出ています。農業への影響も深刻です。丹精込めて育てた作物を収穫を前に根こそぎ荒らされてしまっはたまりません。なにしろイノシシの数は90万頭近くへのぼり、この30年間で3倍以上に増えたということです。有効な対策は捕獲駆除しかないということです。昨年度の捕獲数は約60万頭だった。生息数に比べると大きな数字で切ない気持ちにもなります。過疎化や里山の荒廃、エサの不足など背景は様々でしょう。「人間による餌付けが引き金の可能性もある」と大学教授が指摘していた人間と野生動物の間には本来、越えてはならない一線があるはずで。踏み出してしまうと互いが不幸な、のたうち回りたくなる結果を生んでしまうことになるかも。



都商会 鎌野

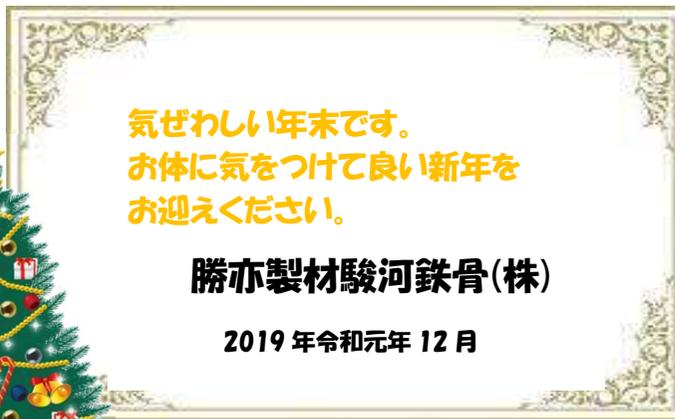


ジャーネーの法則

早いもので令和元年も、もう終わろうとしています。この年になると(55歳になりました。見かけよりは実は若いんです。)光陰矢の如し。少年老い易く学成り難し。当社でも毎朝使っている一般社団法人倫理研究所の「職場の教養」12月3日(火)で、時間が過ぎるのが早く感じる理由として、フランスの哲学者ポール・ジャーネーが発案した「ジャーネーの法則」というのが紹介されていました。生涯のある時期における時間の心理的な長さは、年齢に反比例する(年齢を重ねると体感時間が短く感じる)というものです。この要因の一つとして、「生活に新鮮味がなくなる」ということが挙げられています。子供の頃は、毎日新しい経験や発見をします。しかし、大人になると毎日同じような日常の繰り返しに慣れてしまうことで、時間の流れを早く感じるようになるのだそうです。確かに歳をとると、新しい経験をするのは少なくなるし、おっくうになります。面倒なことはなるべく避けて通りたい・初対面の人と会うのはなるべく避けたい。でも人生を長く楽しむには、やはり新しいものに常に挑戦し、いろいろな人と出会い関わりを持つことなのでしょうね。お歳をめされても生き生きとしている方は、確かにそういう人が多いです。令和2年はひとつ、1年が長く感じられるように頑張ってみようと思います。よろしくお願いします。



英樹



気ぜわしい年末です。
お体に気をつけて良い新年をお迎えください。

勝亦製材駿河鉄骨(株)

2019年令和元年12月



配り

第 247 便



勝亦製材駿河鉄骨(株)

住まい塾御殿場教室
TEL (0550) 87-0048
FAX (0550) 87-1237
〒412-0035 御殿場市中山518番地

苦笑いしつっ

見送る銀行マン

その饒舌を少し危惧して

勝亦 りつ子

あきらさん

五十年ありがとう

野辺のおくりは青空の下

林 なをみ





もう師走

師走です。諸説ありますが、普段落ち着いているお坊さんも年末のこの時期は忙しくあちこちと忙しく走り廻る、という事が由来だそうです。みなさんお忙しいですか？

早いものでもう12月です。毎年12月号は、早いものでもう12月です、とおそらく書いてるんじゃないかなと思います。いや、絶対に書いてる。

年末という事で木配りの紙面でも一年の締め括りをした方がいいのかな？とも思いますが、僕個人としては取り立てて一区切り終わったという感じもなく、毎年恒例というかワンパターンというか芸がないというか、もうこの年になると年末年始の恒例行事も特別新鮮味もなく、普段やらないところの片付けや掃除をする期間、位の意味合いしか持ってこなくなる。なんならクリスマスやお年玉やらで子供たちに貴重なお小遣いを搾取される、なんてことの方が大きなウェイトを占めてくる。と、ここまで書いたら、ああ、これはいかん。日本人として正しい年末年始を過ごさないといけない！日本の文化を後世に伝えるべく清く慎ましく生きていかなければ！という様な感情が芽生えてきた。大掃除して餅つきして年越蕎麦を食べ、除夜の鐘を聴き、初詣にでかけ新年のご挨拶を回り、凧揚げをし書初めをして炬燵でミカンを食べる。

「正しい日本の年末年始」という様なものを今年はしてみようかな、と思いついた、思いついたものの果たして人類最大の敵「めんどくさい」という感情とどちらが勝つのか、私にはまだわからない。とりあえず年賀状を書かないとなあ・・・

という事で、皆様、良いお年をお過ごし下さい。

柳田 敏和



結婚披露宴

さて、令和元年がもうすぐ終わる。今年一番面白かったこと。とある結婚式に出席した、新郎新婦とも東大卒、出席者の大多数が東大、司会者も東大卒のお笑い芸人であり高校教師。各テーブルには数学の本が付箋付きで2冊置いてあり・・・司会者の挨拶の入りは「この中で数学もしくは算数が好きな方～」。からはじまった。この時点でこの数学専門らしい集団に引け目を感じるかもしれないが、私の場合は人間観察のスイッチがON!になった。東北大学の教授、数学を教授していらっしゃる。頭の回転が速いので早口で、取り止めなくしゃべり、いったい何が言いたかったのか？だった。それぞれの両親に司会者が「どのように育てたら、このような頭のいい子ができるのか？」と質問を投げかけたところ、お母様が理論整然と「特別なことなどしておりません」からはじまり延々と小さかった頃の新郎のお話をする。このお話が一番面白かった。(私はね)よんでいただいて良かったと思える結婚式でした。数学者は数学でものを考える。それが心地いいのだろう。最後に司会者が『頭がいいばかりではいけません。親や友達、周りの人に感謝しなければ、人間としてダメですね』。と一言。この人達はこの先、どんな活躍をするのだろうか。と先が楽しみな集団の結婚披露宴でした。いろいろな人がいて色々な感性や文化、生活があり、自分もその中の一人である、人間って面白いなあ。

ねがみ



AI



多方面でのAIの活躍には、目を見張られます。

光日は、美空ひばり没後久しいにもかかわらず、ひばりの為に書き下した新曲を、AIで再現、放映していました。姿、形、そして勿論肝心の歌声に関してはひばり以外の誰も真似、或いは出来得ない発声を含めてその再現には驚きました。

脳科学者の養老氏に依れば、AIはきっちり入力すれば再現出来る理屈の世界である。むしろ、AIという理性を活用して、五感という感性を働かせることを考えたほうが、楽しいと思いますよ。貴方次第ですよ。唯一無二の貴方なのですからね。

そう促されてもなあ…。否、私共は気づかずにAIを無意識に利用している気もいたします。

栗原

小さな大掃除



古来日本人は、年の瀬に向けて大掃除をし、年を跨ぐ際には清々しい我が家で過ごすことを吉としてきましたが、我が家の場合普段行わないことの言い訳として機能しているフシがあります。でも何かしら手をつけて年末はゆっくり過ごしたいところ。とりあえず早急に手をつけておきたかったものからはじめました。半分物置になってしまったあまり使っていない方のデスクトップPCを徹底的に掃除しました。冬になればなるほど静電気が怖いのです。ホコリがつまりに詰まっていたので、ほぼ分解清掃です。接点のグリスすべてを交換したのですが、これは非常に骨が折れました。物理的に小さい空間に手を突っ込むので手が傷だらけになるのもありますが、経年で硬化した古い機械グリスというのは非常にしつこく、今回は量もあったため手持ちの無水エタノールでは全く落ちる気配がありませんでした。エタノールはそもそも油を溶かす溶剤としての能力はないので、IPA（イソプロピルアルコール）を急いで用意しました。これはPC用品として売られているものよりも単価が高いのですが、車用品として売っているものは量も多く安価ですいわゆる水抜き剤と言われるものがそれです。そして売っている場所も多いのです。これを不綿布につけて拭いたところ一瞬で落ちました。適材適所なわけですね。ただしこんなに量いらなかったかも...可燃性なので保管場所に困ります。キッチン周りやガラスなどに使えばいいんでしようけど、言い出しっぺは絶対やらないといけなくなるので...

正樹

